

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 角田 義行
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail: tonekyou@pref.gunma.lg.jp

「授業改善を通して発見できる一人一人の子どものよさ」

利根教育事務所 管理主監 角田 巧

今年度の学校訪問では、身の回りの事象と関連させた単元を構想したり、解決したくなる問いを授業の導入で投げ掛けたりするなど「自分事化」を意図した授業や、代表授業の若手教員を学校全体で支え合う同僚性の高い校内体制の様子を参観させていただきました。これらは、群馬県教育ビジョンの具現化を目指して、教師もエージェンシーを発揮し、児童生徒が「～する」授業への転換を図ろうとしている姿と考えます。

「授業は、教材を媒介に子どもと教師の相互作用で創られるもの」といわれるように、授業には「創る」という面白さがあります。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、1人1台端末を活用した指導方法が多様になり、子ども自身の計画に沿って単元の学びを進める自由進度学習など、個に応じた指導の可能性が一層広がってきました。もちろん、「資質・能力の育成」という目的を明確にして、指導方法が目的化しないよう気を付けなければなりません。授業改善は、やりがいのある業務です。さらに、「その子なりの見方・考え方、個性などを発見する喜び」も授業改善を通して得られる魅力と考えます。それは、「主体的に活動に取り組む姿やつぶやき」に子どものよさが表出され、見取ることができるからです。

今年度、私が授業を参観して「その子なりのよさ」を発見した中学2年生の数学科の例を紹介します。「谷川岳登山のおすすめ時期をデータを根拠に説明する」という活動で、他の生徒と異なる時期（2月）の生徒がいました。生徒同士の説明を聞くと、その生徒は、3か月分の降水量の箱ひげ図が並んだ画面を見せながら「まず降水量でも雪の多い1月から3月までに絞り、次に気温が高くなると雪崩の心配があるので、日照時間や気温の箱ひげ図から、積雪が十分あり雪崩が少ない2月をおすすめの時期」と説明しました。確かに、雪の降水量を説明するには、12か月分ではなく冬の時期の降水量だけで十分です。しかも、天候が安定していることや雪崩などの危険性も考慮していることなど、箱ひげ図を用いて説得力ある根拠を示しています。たった1時間の授業の様子ですが、「この生徒は、きっとウィンタースポーツ好きで筋道立てて考えることが得意なのだろうな」と、よさを見出せる心はわくわくしました。

児童生徒が「～する」授業への転換は、子どもたちが夢中になって活動に取り組む授業への改善です。そして、子どもたち一人一人の様子やつぶやきから、その子なりのよさを教師が発見できます。このような、「子どもと教師の相互作用」により、魅力的な授業や保育が「創られる」よう、管内の各学校園を引き続き支援していきたいと考えています。以下に今年の管内の指定研究における顕著な取組を載せておきますので、来年度の計画を立てる上で参考にしてください。

指定事業を生かした校内研修の充実

道徳教育総合支援事業(古馬牧小)の取組

自他を大切にし、
 よりよく生きようとする児童の育成
 ～エージェンシーを発揮した道徳の授業づくりを通して～

- 「自分事」として考える授業展開の工夫
 - ・アンケートの活用（導入・展開）・自分の立場の明確化
 - ・自分たちで納得解を導く中心発問づくり
- 交流活動の工夫
 - ・座席の流動化 ・トリオディスカッション ・手ぶらトーク
- 指導と評価の一体化
 - ・振り返りの視点の明示 ・学期毎の振り返り
 - ・学びのポートフォリオ化

5年生 道徳科 主題名「相手の立場を理解する」
 教材名「すれちがい」（日本文教出版）

◆自分との関わりで考えられるよう、導入で実態を示したアンケートを提示し、教材から見いだした課題を基に3人組になり、登場人物それぞれの立場から話し合いました。終末では、「過去」「今」「未来」の時間軸を視点に自分自身を振り返りました。



古馬牧小学校 HP に、本事業の詳細が紹介されています。

ぐんまの子どもの体力向上推進事業(薄根小)の取組

体力や健康に関心を持ち、
 進んで運動できる児童の育成
 ～家庭・地域と連携した「からだづくり」の充実を通して～

- 授業改善
 - ・体育部会による系統性を意識した単元構想
 - ・外部講師（専門家）から学ぶ
- 健康教育の推進
 - ・外部講師による健康教育（睡眠講座・歯科指導・利根中央病院との連携）
- 家庭・地域との連携
 - ・総合型地域スポーツクラブとの連携
 - ・学校だよりによる取組を紹介

5年生 体育科 単元名「走り幅跳び」

◆試しの運動を通し、児童が自己の課題を把握し、主体的に課題を解決できるようにしました。また、練習の方法や場を選択させ、自作の教具で高く跳べるよう意識付けました。さらに、友達同士で動きを見合うことにより、動きのポイントを伝え合う姿が見られました。



令和6年度「ぐんまの子どもの体力向上ガイドブック」に紹介されます。

2年目の重点！！

各教科等授業改善プロジェクト授業改善推進校【算数・数学】

ハイライト動画
2月下旬公開

現れてほしい姿

指導の重点

日常生活や社会、数学の事象に関わる「問い」を見いだす

数学的な表現を用いて交流し、自他の考えを広げ、深める

① 問いを「自分事化」
〈自己決定、試行錯誤〉

② 交流活動の質の向上
〈自己決定、対話・交流〉

解決方法、理由、性質、関係等に関わる「問い」を教師と児童生徒が共有

他の考えを理解する活動と、比較・検討、関連付けを図る活動を意図的に設定

新治小 6年・単元名「比例」

みなかみ中 2年・単元名「データの活用」

「であう」過程（本時1／全9時間）
単元の課題「どうしたら枚数の求め方をしっかり説明できるだろうか。」

「つかう」過程（本時7／全8時間）
単元の課題「複数のデータを効率よく比較するにはどうすればよいか。」

①「卒業式に向け、B5用紙とお花紙を全児童3枚ずつ準備する」場面から、枚数を数える不便さや伴って変わる数量があるのではないかという予想を出し合い、「枚数を数えずに簡単に求められないか」という問いを共有しました。

②前半の交流活動は、個やグループで、はかりや定規などを用いて実際に計測し、枚数と重さ、枚数と厚さにどのような関係があるか調べて考えを広げ、後半は全体で重さや厚さから枚数が求められる理由や、誤差がある場合の比例関係の是非について話し合っ



て考えた。【成果】伴って変わる2つの数量を具体的に調べて比例関係を見いだしたり、数値の求め方が適しているか話し合ったりしたことで、自分の説明の不十分さに気づき、比例の学習への必要感を高めることができました。

①「谷川岳登山のおすすめの時期を提案する」場面から上記の単元の課題を設定し、気温データの箱ひげ図等を基に、導き出した自分なりの結論と根拠を大型モニターに一覧表示して「どうしたら自分の考えに説得力をもたせられるか」という問いを共有しました。

②前半の交流活動は、各自が相手を選び、おすすめの時期と、その根拠となるデータの分布や特徴を説明して考えを広げ、後半は全体で各自の考えが変容した理由を話し合っ



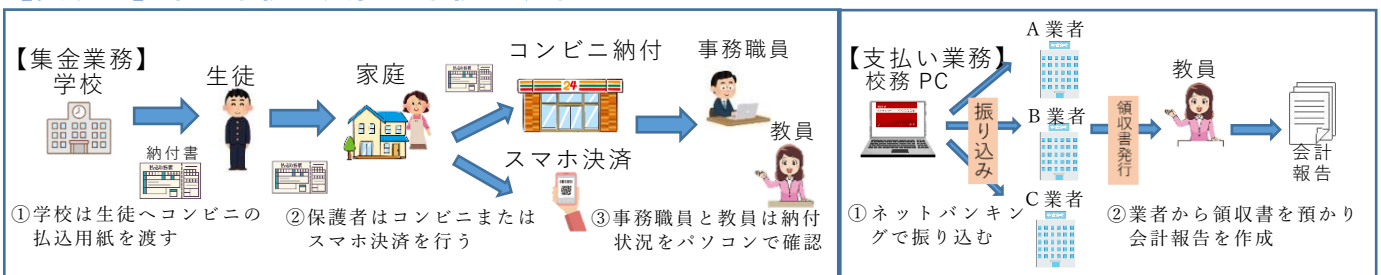
て考えた。【成果】「説得力ある説明」を視点に自分なりの結論と根拠を考えたり、多様なデータを分析して繰り返し説明し合ったりすることで、統計を考える上での見方・考え方を働かせて批判的に考える力を伸ばすことができました。

【算数・数学】＜児童生徒が「～する」授業のためのポイント＞

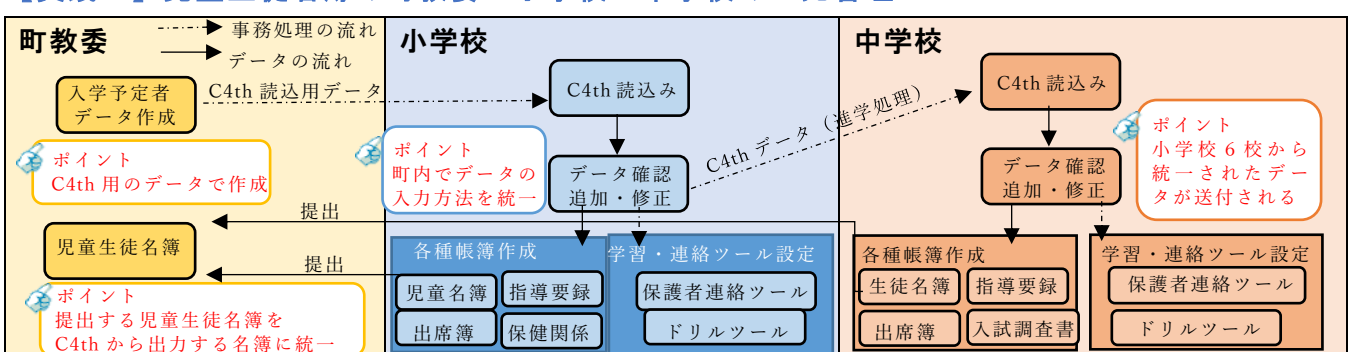
- 「であう」過程と「つかう」過程を関連付けて単元を構想することで、日常生活と数学の結び付きや数学の有用性等を実感し、主体的に学ぶことができます。
- 「問い」を共有するには、児童生徒の実態に即した「教材の工夫や状況の設定」、「数学的な見方・考え方を働かせる発問や投げかけ」が効果的です。
- 充実した交流活動にするためには、説明する対象（事柄・方法・理由）、数量や関係等の数学的な表現に着目して、「考えを広げる活動」と「考えを深める活動」を意図的に実施することが大切です。

「チーム学校」に係る事務職員特配校の実践（みなかみ中 令和5・6年度）

【実践1】集金業務と支払い業務の効率化



【実践2】児童生徒名簿の町教委・小学校・中学校の一元管理



【実践3】全小・中学校の備品の共有化 ～C4thの活用～

共同学校事務室で協力し、町内の教職員が、C4thを通じて町内のすべての学校の備品を閲覧できるようにしました。

詳細はこちら

